

一月二十一日(木)
「なわとびチャレンジ」
なかよし班で8の字とび



2月 

おおみ

本当の強さ

校長 油井 宏樹

2月になりました。2月のことを如月(きさらぎ:陰暦)とも言います。これは、寒さのために更に着物を重ねて着るので、衣を更に着る「衣更着(きぬさらぎ)」から「きさらぎ」と言うようになったと言われているそうです。また、2月4日は立春です。その前日が節分になります。ご存じのように「節分」という言葉は季節の変わり目、分かれ目という意味なので、1年間に4回あります。現在では、立春前日だけが節分としての言葉が使われています。これから、雨水(雪が雨にかわり氷がとけ始める頃)、そして、啓蟄(冬ごもりの虫が地面に出てくる頃)と少しずつ春に近づいてきます。春が待ち遠しいですね。

さて、大相撲初場所は、琴奨菊が14勝1敗で初優勝しました。平成18年初場所の大関・栃東以来、10年ぶりで日本人が優勝しました。優勝を決めた瞬間、テレビは琴奨菊のお父さんを映し出していました。涙で顔をくちゃくちゃにして大喜びでした。テレビ観戦していた自分も目頭が熱くなりました。琴奨菊は大関直前の関脇では、11、10、11、12勝と安定感のある強い力士でしたが、その後は25場所のうち11勝以上が4回しかなく、とても褒められた成績ではありませんでした。それどころか、負け越したら大関から陥落する角番も5回ありました。けがにも苦しみながら、それでも、地道な稽古を重ねた結果、鋭い踏み込みから前に出る相撲が光り、3人の横綱すべてを破る活躍を見せました。初土俵から14年、31歳で悲願の初優勝を果たしました。

相撲と言えば、強い力士に双葉山がいます。69連勝の記録は今も破られていません。その双葉山は連勝記録が途切れた時、「我未だ木鷄(モッケイ)たりえず」と知人に話したそうです。木鷄とは、強さを決して外には表さない最強の闘鶏を讃えた言葉です。東西に敵なしと言われた双葉山でさえ、まだ本当の強さには至っていないと悟りながら相撲に取り組んでいたのでしょうか。

強さを表す言葉に「木強(ボッキョウ)」という言葉があります。「飾り気がなく一徹であること。また、そのさま。」という意味です。心が木石のように一徹なことから「木」の文字がつけられたようです。また、違う解釈もあるようです。木があれば木陰ができます。陽射しの強さに負けない木を慕って木陰に人が集まってきます。つまり、「木」は、「徳」を表します。徳を持った強さ、これが本当の強さであるという解釈をする人もいます。

大海小学校の子どもたちも、やはり、本当の強さをもった人間として成長してほしいと思います。そのためには、公正な振る舞い、咄嗟の判断力、公平な態度など人格の形成に不可欠な意欲や意識、心情などをもちつつ自分を客観的に見つめる力を身に付けてほしいです。

他校では、インフルエンザによる発熱のために、欠席する児童が増えています。今の所、大海小学校では1人も欠席はいません。予防のための注意喚起を続けています。「うがい・手洗い」を小まめにして心身ともに健康な体を維持しましょう。ご家庭でも体調管理に気を配り、元気に学校へ送り出してくださいようお願いします。